

# 「安全安心なまちづくりフェスティバル」 を開催しました！！

高松高検刑事政策推進チーム

令和7年3月1日（土）、高松法務合同庁舎において、高松法務合同庁舎の入居官署である高松高等検察庁、高松法務局、高松矯正管区、四国地方更生保護委員会、高松出入国在留管理局、高松地方検察庁、高松保護観察所が主催し、香川県警察、一般社団法人こうち絆ファームとの共催で開催しました。

今回のイベントは、犯罪のない安全で安心なまちづくりの重要性について、国民の皆様理解を深めていただくことを目的に開催しました。

フェスティバルでは、安全安心なまちづくりの取組紹介、お仕事スタンプラリー、こうち絆ファームによる野菜即売会、パトカー・白バイ乗車体験、制服着用体験（子供用）、香川県警察本部音楽隊による演奏会など、各官署が工夫を凝らした『楽しく学べるイベント』が盛りだくさんでした。

イベントは、主催官署の代表者及び法務省マスコットキャラクターが出席したオ



ープニングセレモニーから始まり、イベント直後には、多くの市民の方にご来場いただきました。



オープニングセレモニーの様子

#### ○高松高検・地検ブース

検察庁では、実際に捜査に使用する防刃チョッキや手錠などの押送用品を展示するとともに、高松高検及び管内地検の法教育の取組紹介等を行いました。



押送用品については、展示だけではなく、実際に体験コーナーとして来場者に触れていただいたところ、初めて触れる器具類に、「わ～。すごい。」「思ったより重い！」など、来場者の驚きの声が聞こえてきました。

午後1時から開始した「模擬取調べ体験」では、5歳から82歳まで20名の方にご参加いただきました。



模擬取調べの様子（中央は被疑者役の検察官）

飲食の疑いで逮捕された被疑者役を

検察官が演じ、参加者が検察官役として、供述の矛盾点等や疑問点等を被疑者役に質問しました。

参加者からは、「本当にお金を持っていたのか?」、「何を食べたのか?」、「いつ逃げようと思ったのか?」などの鋭い質問が続きました。

鋭い質問には、被疑者役の検察官が「ドキッ!!!」などとリアクションをすると、参加者は声を出して笑っていました。

最終的には、検察官役の見事な取調べにより、被疑者役は罪を認め、反省することとなりました。

模擬取調べ後には、被疑者役の検察官やオブザーバーの検察官から、「この質問が良かった。」「あの質問はとても鋭かったので、もっと質問しても良かった。」などの感想をお伝えしたところ、参加者は、手応えを感じたようで、とても嬉しそうにされていました。

参加者からは、「模擬取調べはドキドキしたけど、またやってみたい。」「言っ  
て欲しいことをいってもらえなくて難しかったけど、やってみてよかった。」「とても  
面白かった。」などの感想をいただきました。

また、今回は、来場された方に法務省の業  
務について知っていただくために、法務省の  
仕事をしている人を探してスタンプを集める  
「法務省のお仕事スタンプラリー」を実施し  
ました。



イベント中は、スタンプラリー用紙を持って、用紙に記載された職業の職員を探  
すために、会場を楽しそうに歩き回るお子さんたちがたくさんいらっしゃいまし  
た。

スタンプをもらう際には、「いつもはどういうお仕事をしているんですか？」「お  
仕事は大変ですか？」など各官署の職員へたくさんのご質問もいただきました。

検察官に対しても、「どうして検察官になろうと思ったのですか？」「検察官には  
どうすればなれますか？」「裁判官と検察官は何が違うのですか？」などたくさん  
の質問をいただくなど、スタンプラリー参加者の方と楽しい時間を過ごさせていた  
できました。

今回のイベントは、高松法務合同庁舎初めての合同イベントでしたが、子供の方から大人の方まで幅広い世代の方約400名にご参加いただきました。

来場者の方がお帰りになる際に、「楽しかったよ!」「勉強になりました。」「初めて知った仕事もあって面白かったです。」などと激励の言葉もたくさん頂戴しました。

今回のイベントを通じて、安全安心なまちづくりの重要性について、御理解を深めていただくとともに、検察庁を始めとした法務省の業務について、少しでも身近に感じていただけたのであれば大変嬉しく思います。

本当にありがとうございました。



イベントを盛り上げてくれた法務省マスコットキャラクターたち